

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：公共事業評価	
日付：11月21日（土）曜日、セッション時間：13：15～14：45	
司会者名（所属）：宮城 俊彦（東北大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 既存の費用便益手法を修正する方法の提案 2 件と世界銀行が開発途上国の道路整備への資金援助の際の要件としている HDM-4 のモデルパラメータのキャリブレーション手法の提案 1 件があった。費用便益分析法については、特に環境問題を対象に将来遵守すべき基準を達成するような土地利用交通条件を定め、それから逆に現在を見直す、いわゆる、バックキャスト法法の提案。また、効率性と衡平性を同時に達成できるような評価指標の提案が成された。
	（82）奥田隆明（名古屋大学）： 将来達成すべき目標水準をどのように与えるのか、あるいは、将来の不確実性をどのように考慮するのか、いわゆる割引率を全く考慮しないことのリスクをどのように回避しているのか、などの質問が出された。
	（83）栄徳洋平（（株）福山コンサルタント） 発案者が推定している不平等回避度パラメータについて、このパラメータは元々求めることができないパラメータではないのかという疑問が出された。また、効率性と衡平性を同時に改善するのではなく、逆方向に動く場合の評価は行えるか、あるいは、この評価手法は個人レベルの評価か地域レベルのものなのかという質問があった。
	（84）Deaseok Han（京都大学）： HDM-4 自身が日本の研究者には余りなじみのないものなので十分が討議は行われなかった。道路区間ベースでモデルのキャリブレーションが容易になるのは理解できるが、道路区間ベースの評価と経路ベースとの評価の整合性、あるいはネットワーク全体の評価との整合性は保たれるのかという質問が出された。